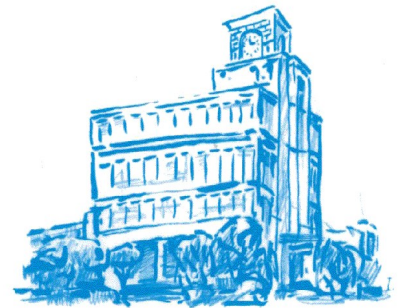


授業研究

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

新緑のまぶしい季節になりました。新学期から1か月が過ぎ、子どもたちは新しい学級に慣れてきたことでしょう。総合教育センターの前を登校する子どもたちの姿もいきいきと輝いています。

伊丹市では、ここ数年、教員の大量退職・大量採用が続き、急速に世代交代が進んでいます。30代後半までの教員が多くなっている中、これまで先輩方が積み上げてこられた「授業の技」などを伝承しながら、全職員協働のもとに、今の時代や社会が求める「授業のあり方」を研究していかなければなりません。この役割を担っているのが研究主任です。



先日、荻野小学校佐古主幹教諭を講師に「校内研究の進め方—組織で育てる子どもと教師—」といったテーマで小・中・特別支援学校の研究担当者会を開催しました。佐古主幹教諭からは①学校評価や研究アンケート、全国学力・学習状況調査結果等を用いた自校の課題の把握、②研究推進による学校教育目標の具現化、③研究の具体的な進め方などを中心に自身の経験を踏まえたお話をいただき、とてもよい学びの機会となりました。

学校は、若手からベテランまで様々な経験を持つ先生で構成されています。研究主任は、自校の課題を解決するために、そのような教職員の束ね役として、とりわけ、現在は、新型コロナウイルスの影響もあり、これまでと違った手法を取り入れることなども視野にいれ、研究を進められています。

我が国の学校教育において、教育の質や教員の質をあげてきたのは、言うまでもなく研究活動です。研究活動は、学校における教育活動の中でも最も大切にしなければならないものです。学校を変えていくために、子どもたちを幸せにするために、自校ならではの課題に即した授業研究の充実を図っていただきたいと思います。

前号に続き、校内研究の充実に向けた特集を組みましたので、ぜひ、研究推進のための資料として活用していただきたいと思います。

授業研究を楽しもう!!

授業を見なければ、授業は変わらない。
授業を見せなければ、授業は変わらない。
授業研究でしか、授業は変わらない。

澤井陽介著『授業の見方』より



まずは 教材研究



1. 学習指導要領（+解説編）を読もう！

学習指導要領は、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容が定められたものです。しっかり読んで、その単元の目標を理解しましょう。

解説編には、より具体的な内容が書かれています。こちらもしっかり読みましょう。

(1)(2)を繰り返しましょう。教えるべき内容が明確になります。

2. 教科書を読もう！

教科書は、学習指導要領の内容を踏まえて作成されています。教科書ではどのような単元構成になっているか、確認しましょう。

伊丹市で採用している教科書以外にも教科書はあります。授業研究の際には、**他社の教科書ではどのような内容になっているかも**参考にしましょう。

3. 先行実践を集めよう！

先行実践は、HPや書籍で探すことができます。いろいろな実践を集めることで、授業のイメージをもつことができますようになります。

総合教育センター5階 授業力向上（カリキュラム）支援センターを活用しよう！



4. 自校の研究を確認しよう！

各校、それぞれの学校の課題を克服するため、研究テーマを定めています。そのテーマから外れてしまうと、学校全体の授業研究とすることができません。**自校の研究テーマに沿った授業を行う**ことで、授業者だけでなく、学校全体の授業力向上に資するものとなります。

次は 指導案作成

1. 単元構想を練ろう！

①児童生徒の実態把握をしよう（児童生徒観）

本単元の学習内容と関連した児童生徒の実態を確認しましょう。

②教材で教えるべき内容を捉えよう（教材観）

学習指導要領や教科書会社が発行している指導書等を参考に、その教材で教えるべき内容をまとめましょう。

③どのように学習を進めていくか考えよう（指導観）

教科書や先行実践、自校の研究をもとに、学習の進め方を考えましょう。

2. 本時を考えよう！

①児童生徒の実態把握をもとに、目標を決めよう

目標は、**できるだけ具体的に**書くようにしましょう。（教えるべき内容を明確にすることができます。）

②目標が達成できたかをどうやって評価するか決めよう

評価は成績をつけるためだけにするものではありません。**達成できていない子どもがいたらどうフォローするか**も考えましょう。

③展開を考えよう

目標を達成するためには、どのような展開にすれば良いかを考えましょう。その際には、**子どもの意識や思考の流れに沿った構成**になっているかを常に意識して考えるようにしましょう。

指導と評価の一体化

④場面に応じたICTの活用を考えよう

目標達成のために、**1人1台タブレット端末を活用することが有効な場面**はないかを考えましょう。（使うことが目的になってはいけません。）

③板書計画を考えよう

実際に、黒板に書いてみましょう。その際に、**子どもからどのような意見が出てくるかも想定**しながら作成しましょう。板書を写真にとって印刷しておく、それを見るだけで本時の展開を確認することができます。

いよいよ

授業の実践



1. 子どもを大切にしよう！

①子どもの発言をよく聴こう

指導案通りに進めることに集中しすぎて、子どもの発言を流してしまうことがあります。**子どもたちの発言機会、活躍する場を大切に**しましょう。

②「分からない子ども」に気付こう

教師の発問に対して、反応する子ども（手を挙げる子ども）だけで授業を進めてはいけません。「**分からない子ども**」に寄り添って**授業を進める**よう心がけましょう。

2. 授業後を大切にしよう！

①参観者の意見を受け止めよう

授業研究では、様々な課題を指摘されることがあります。これは、**自分が成長するチャンス**です。課題に気付けなければ、進歩することはできません。完璧な授業などないと思って、しっかり受け止めましょう。

②授業記録を残そう

長く教員を続けていれば、同じ学年をもつこともあります。そうすれば、授業研究で行った単元は、大きな財産となります。授業動画や板書記録を残すことも、大切です。できれば、**事後研究会の意見をもとに、指導案を修正**しておく、授業者だけでなく、学校の財産として残すことができます。

指導案は、授業の設計図です。

1時間の授業だけでなく、**学んだことを次の学習につなげていくことが大切**です。

授業を設計（デザイン）する力を身に付けましょう！

★ポイント

授業づくりは、同僚や管理職に相談しながら進めましょう。一人では気付かなかったことに気付くことができます。また、授業力向上（カリキュラム）支援センターのコンサルタントや総合教育センターの指導主事にも是非相談してみてください。

【引用・参考文献】

・澤井陽介著『授業の見方』東洋館出版社
・田村学著『深い学び』東洋館出版社
・佐藤明宏著『研究授業のつくりかた』東洋館出版社
・藤村裕一著『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス 他

書籍紹介



授業づくりにおすすめの書籍を紹介します。
授業力向上（カリキュラム）支援センターで閲覧できますので、是非活用ください。



授業づくりの前に読もう！

- ◎ 『深い学び』 田村学【著】
- ◎ 『資質・能力と学びのメカニズム』 奈須正裕【著】
- ◎ 『授業の見方』 澤井陽介【著】
- ◎ 『子どもも教師も元気になる「あたらしい学び」の
つくりかた』 堀田 龍也/赤坂 真二/谷 和樹/佐藤 和紀【著】

新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びなのか、どのような授業が求められているのかを学ぶことができます。

指導案作成のプロセスを学ぼう！

- ◎ 『10年目までにマスターしたい研究授業のつくりかた』
佐藤明宏【著】
- ◎ 『研究授業パーフェクトガイドブック』 小林 康宏【著】
- ◎ 『授業改善のための学習指導案』 藤村 裕一【著】

具体的な授業のつくりかた、指導案作成のプロセス等を学ぶことができます。
他にも、各教科の具体的な指導案や先行実践などの書籍も、カリセンにはたくさんあります。

評価方法の参考にしよう！

- ◎ 『「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価』
西岡 加名恵/石井 英真【編著】
- ◎ 『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』
西岡 加名恵【編著】
- ◎ 『評価が変わる、授業を変える』 高木 展郎【著】

評価についての基本的な考え方を学ぶことができます。
具体的な事例も載っていますので、授業づくりの参考になります。

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00~18:00
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

